

MACF 礼拝説教要旨

2021 年 12 月 5 日

待降節 2

「マリアの応答と約束の救い主」

ルカによる福音書 1 章 26 節～38 節

1:26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

1:27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

1:28 天使は、彼女のところに来て言った。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

1:29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

1:30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

1:31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

1:32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

1:33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

1:34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」

1:35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

1:36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

1:37 神にできないことは何一つない。」

1:38 マリアは言った。「わたしは主のはしためです。

お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

有名な箇所です。クリスマスのたびに読まれる箇所でもあります。

そしてマリアの応答

「「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」

という言葉にはいつも頭が下がる思いがします。

不安もあったことでしょう、なんだか騙されているような気分にもなったかもしれません。自分をマリアの立場に置いてみることは難しいですが神様から選ばれたという喜び、救い主の母となる戸惑いそもそも結婚前なのに妊娠出産を経験するということへの社会的な不安と戸惑いなど、人間として、また女性としての最大の不安の真っ只中に置かれることになった若いマリア。

そんな彼女からの真剣で素直な告白

「「わたしは主のはしためです。

お言葉どおり、この身に成りますように。」

ここに彼女の「信仰者としての生き方」が表明されています。

しかし、今朝はマリアの応答への驚きだけを語るつもりはありません。

むしろ、天使が教えた赤ちゃんについてのことを考えたいのです。

この赤ちゃんもまた、出生の秘密を知った時、少なからず驚きや不思議を感じたに違いありません。

さて、天使の説明はこうです。

1:31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

1:32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

1:33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

1) イエスという名前

この名前は決して珍しいものではありませんでした。そしてその意味は「神は救う」「神は救い」というものです。

聖書の中に出てくる名前は、その人の人となりや特徴を表明しているので、このイエスという方の存在、言葉、教え、行動によって「神が救ってくださる」存在であることが、明確に表明されるという意味をもつのです。

イエス様の誕生と存在によって「神は救う」お方であることが具体的にわかるようになるのです。

2) 偉大な人、いと高き方の子

人類史上、最大の存在として高く評価されるお方になるという約束です。そして、これについてはその誕生から 2000 年経った今だからこそ証明できることでもあるかもしれません。つまり、イエス様の弟子たちはナマのイエス様を知っているわけですがそのお方が歴史の中で人類にどれほど大きな影響をもたらすのかわかつては

いませんでした。でも、私たちにはわかります。

こんな詩があります。

「ひとりの孤高の生涯」 作者不詳・関根一夫訳

彼は、世に知られぬ小さな村のユダヤの人家庭に生まれた。

母は、貧しい田舎の人だった。

彼が育ったところも、世間にはあまり知られていない小さな村だった。

彼は 30 才になるまで大工として働いた。

それから、旅から旅の説教者として 3 年を過ごした。

一冊の本も書かず、事務所も持たず、自分の家も持っていなかった。

彼は、自分の生まれた村から 300 キロ以上出たことはなく、偉人と言われる有名人にはつきものの「業績」を残したこともなかった。

彼は、人に見せる紹介状を持たず、自分を見てもらうことがただひとつの頼りだった。

彼は、その地域を巡回し、病人をいやし、足なえを歩かせ、盲人の目を開き、神の愛を説いた。

ほどなく、この世の権力者たちは彼に敵対しはじめ、世間もそれに同調した。

彼の友人たちは、みな逃げ去った。

彼は裏切られ、敵の手に渡され、裁判にかけられ、ののしられ、唾をかけられ、殴られ、

引きずり回された。

彼は十字架に釘づけにされ、二人の犯罪人の間に、その十字架は立てられた。

彼がまさに死につく時、処刑者たちは彼の地上における唯一の財産、すなわち彼の上着をくじを引いてわけていた。

彼が死ぬと、その死体は十字架から下ろされ、借り物の墓に横たえられた。

ある友人からの、せめてものはなむけであった。

2000 年という長い年月が過ぎていった。

今日、彼は、人間の歴史の中心、前進する人類の先頭に立っているようだ。

「かつて進軍したすべての軍隊、かつて組織されたすべての海軍、かつて開催されたすべての議会、かつて権力を振るいながら統治したすべての王たちの 影響力のすべてを合わせ一つにしても、人類の生活といのちに及ぼし与えた影響の大きささにおいて、あの『ひとりの孤高な生涯』には到底及びも つかなかった。」と断言しても間違いではないだろう。

3) 父ダビデの王座・終わることのない支配

この赤ちゃんに対して天使は「神はその子に王座・主権・支配」をお与えになると語りました。

要するにイエスはキリストであり、主と唱えられる存在として働くお方だということです。イエス様はご自分のことをこう語りました。

マタイによる福音書

11:27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。

11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

イエス様が人々の重荷を担い、休ませることができるのは、すべてのことを父なる神から託されており、主権・支配をお持ちだからです。

さらにイエス様は、天にお帰りになる前に弟子たちにこう語りました。

マタイによる福音書 28 章

28:18 イエスは、近寄って来て言われた。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。

彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

ここでもイエス様は「すべての権能を授けられている」存在として自分を語っています。イエス様は主なのです。主権者、統治者、支配者なのだと聖書は教え自らもそのことを証しなさいました。

イエスという名前・神は救う

偉大な人・貧しく小さく生きたにも関わらずその影響は無限大

主権者イエス・イエスは主

マリアはこのイエスの母となるように選ばれました。
マリアに感謝。
そしてイエス様に礼拝。

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/PlvXmCtQINE>